

8-4-7 新しい生活様式の道路空間WG

1. 活動の目的

コロナ禍は、人とモノの動き、生活様式や社会経済構造を変革した。また、ニーズが多様化する道路空間の賑わい創出に向けて“ほこみち”等の施策が展開される背景より、新しい生活様式に相応しい道路空間創出と新しいモビリティの活用方策について、建設コンサルタントとして、「ひと」中心の「みち」づくりを実現するための提案を行うことを目的として、「新しい生活様式の道路空間WG」は活動した。

2. 主な活動の記録

“ほこみち”はじめ、新たな道路空間の活用方策に関する調査・研究、道路行政への提案、道路から沿道のまちづくりへの展開の一翼を担うこと、成果の会員への発信・普及を行うことなどを主な活動内容として、今年度もWG活動を実施した。

- ・昨年度までに検討を行った「ひと」中心の「みち」づくりを実現するための課題と対応方法を取りまとめ、「建設コンサルタントが考える道路空間の新しい使い方～Meet on the Street～」として道路局に提言
- ・道路空間を活用した賑わいづくりが日本中で推進されることを目的とし、実際に新しい方法で道路空間を使う民間の方に向けたガイドブック作成を目的とした検討

(1) ワーキングの開催（計8回の開催：Web併用）

a) 提言書完成に向けて（4月25日、5月31日）

令和4年度より検討している提言書に関する最終案について検討・協議

b) ガイドブックの作成（7月4日、8月8日、9月21日、10月26日、11月28日、12月26日）

令和4年12月に公表したパンフレットの構成をもとに、実際に道路空間を活用する主体が利用できる、誰もが分かりやすいガイドブックを作成するにあたり、仕様、目次、骨子、コンテンツ、スケジュール、先進事例へのアンケート

ト・ヒアリング等について検討・協議

(2) 提言の手交（6月27日）

令和3年6月より検討を行ってきた「ひと」中心の「みち」づくりを実現するための課題と対応方法に関する提言書を中村哲己会長より丹羽克彦道路局長に手交



写真 提言手交の様子（道路局長室にて）

(3) 雑誌「交通工学」への投稿

本WGでのこれまでの検討成果を一般社団法人交通工学研究会が出版する雑誌「交通工学第59巻1号（2024年1月発行）」に『新しい生活様式を踏まえた今後の道路空間について』と題した原稿を執筆

(4) ほこみちインスパイアフォーラム2023に参加

令和4年12月に公表したパンフレットを会場にて配布・説明（11月30日）

3. 次年度の活動について

令和5年度の活動成果をもとに、道路空間を活用した賑わいづくりが日本中で推進され、各地に「ひと」中心の「みち」づくりによる新たな賑わいが生まれることを目的として、現在作成中である、実際に新しい方法で道路空間を使う民間の方に向けたガイドブックを完成・公表することを大きな目標として、引き続きWGにおいて議論する。活動計画は次のとおりである。

- ・ワーキング：毎月1回程度の開催予定
- ・チーム会議：WG開催の間に適宜開催
- ・ガイドブック：11月頃を目途として公表
- ・セミナー・報告会等の開催

（新しい生活様式の道路空間WGWG長

長田 拓也）